



地域の特性を生かして作付けされ、その成果を上げている水田ごぼう



農業振興

楠木園洋一議員

特色ある振興策は
自助努力を支援

3月定例会において、関係機関、団体、農家との連携を深めながら、町内各地域の特性に応じて施策を推進して参るとありますが、具体的にどのようなことを考えているか。

町長 我が町の農家に直結する重要な問題を整理し、解決するために、それぞれの専門機関との連携が不可欠であります。

農家や農業集団の方々が自ら進んで取り組もうとする作物に対して支援をしていく方が、行政から押し付けるよりも、より効果が高まるのではないかと、いうことで、その成果を上げるために、農協、共済組合、普及センターなどの機関と密接な連携を保ちながら、農家所得の安定につなげなければならぬと考えています。

消防設備

下大迫幸太郎議員

防火水槽等の管理は
地域、住民で管理を



防火水槽等の管理は地域住民の主体的な取り組みが求められる

町内に設置されている消火栓・防火水槽の維持管理は、行政が指導し集落とその地域で管理が行われているが、管理不足の所や柵の傷みの大きいもの、自然水利の場合貯水の少量の所などがある。今後どのような対応と指導がなされるか伺いたい。また、消防団員の定期点検日に主な設置場所等の点検はできないものか。用地は地元提供だが、用地の分筆登記は市町村合併前に検討する必要はないものか。

町長 町内には消火栓103基、防火水槽68基があります。消火栓は1基当たり3千円を一般会計より支出し水道課で管理しています。防火水槽の管理は基本的に地域住民及び自治公民館で管理し、修理関係については、原材料支給で対応しています。用地の分筆登記については現状では必要ないと思っております。消防団でも点検を行っていますので、今後とも連携し通常管理については、地域住民の協力をお願いし管理して参ります。

一般質問

今回の一般質問は6月20日に行われ5人の議員が登壇しました。質問と答弁の要旨をお知らせします。

米改革

高嶺虎男議員

新大綱の対応は
要綱等が示されてから



国は来年から生産調整の関与を緩め、生産者とその団体が主体的、自主的に取組み、米の需要に基づき生産目標数量を行政と連携して示すとある。担い手以外の零細農家の転作は自由意向との見解もある。正しく理解されるための指導方法を伺います。また、販売流通は市場原理による売れる米づくりを進めるとある。JAと連携し、生産販売事業を充実し、生産者の意欲向上を図るべきではないか。更にJA



新大綱により今後はうまい米、売れる米が求められる

と確立した「奥さつま米」の販売状況と今後の取組み及び県のブランド産地指定について伺います。町長 第1点の農家に対して正しい理解と指導については要綱、要領が8月に国から示されるので機会を見て農家への説明を行い、理解が得られるよう努力します。2点目のさつま農協管内で生産される米、特にヒノヒカリは、食味等良好であると評価を得ており、販売や農家の生産意欲の喚起に向け努力します。3点目の、ヒノヒカリも産地や地域により食味が異なることから、今年度農協で食味計を2台購入、また低温倉庫を建設し、品質の保持、保管の充実を図る計画があります。4点目の県のブランド指定については、米については対象品目でない。しかし経済連においては、伊佐地区と、さつま農協管内の米をブランド品として、1俵当たり150円の加算をつけているようです。

ここを、ただしました